

『森は海の恋人』から東北の復興を考える

“つなげよう、支えよう森里川海” 推進志民会議 IN 東北

主催：NPO法人森は海の恋人、一般社団法人場所文化フォーラム
協力：東北大学生態適応センター、環境省東北地方環境事務所



日時：2015年6月19日（金） 13:30～16:40

会場：東北大学片平キャンパス
生命科学研究所プロジェクト棟 1階講義室-A・B

私たちは今、文明の大きな岐路に直面しています

自然と共に生きる道に、踏み出しましょう

入場
無料

基調 講演

畠山 重篤：NPO法人森は海の恋人 理事長

【森は海の恋人 人の心に木を植える】

中井 徳太郎：環境省 大臣官房審議官

【環境省「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトのねらい】

地域の 取り組み

川廷 昌弘：株式会社博報堂広報室CSRグループ推進担当部長

【分水嶺に囲まれた海辺のまち南三陸を山から動かすプロジェクト】

ほか、数名の取り組み事例をご紹介します予定です。

■ パネルディスカッション

コーディネーター：吉澤保幸（場所文化フォーラム名誉理事）

パネラー：中井徳太郎・田中克（京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長）・ほか



登壇者紹介

畠山 重篤

NPO法人森は海の恋人 理事長

1943年生まれ。気仙沼水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖業を継ぐ。海を守るには海に注ぐ川、さらにその上流の森を守ることが大切だと気付き、漁師仲間と共に「牡蠣の森を慕う会」を結成(2009年、NPO法人森は海の恋人を設立)。1989年より気仙沼湾に注ぐ大川上流部で、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人運動」を行っている。東日本大震災で牡蠣養殖施設等の全てを失うが、震災後の自然環境を活かした地域づくりを展開している。

朝日森林文化賞(1994年)、緑化推進功労者内閣総理大臣表彰(2003年)、宮沢賢二イーハートブ賞受賞(2004年)、国連森林フォーラム(UNFF)「フォレスト・ヒーローズ」受賞(2012年)、第6回KYOTO地球環境の殿堂受賞(2015年)、第25回みどりの文化賞受賞(2015年)など。



川廷 昌弘

株式会社博報堂広報室CSRグループ推進担当部長

1963年 兵庫県芦屋市生まれ。2005年から始まった「チーム・マイナス6%」の業務をきっかけにソーシャル・コミュニケーション領域に専従。現職に加えて「国連生物多様性の10年日本委員会」委員のほか多数委嘱。2010年秋に名古屋で開催された生物多様性条約(COP10)では、「教育とコミュニケーション」の決議で発言し成果を挙げ、国際自然保護連合教育コミュニケーション委員会(IUCN-CEC)メンバーになり、環境コミュニケーションのプロボノ団体「一般社団法人CEPAジャパン」を設立し代表に就任。写真家としても活躍しており、近年では三重県の速水林業を3年に渡って撮影し写真展「人工林の美、林業の現場」を開催。現在は「南三陸を山から語るプロジェクト」をプロデュースしながら撮影を行うなど、「地域の大切な資産、残したい情景、記憶の風景を撮る」をテーマに取り組んでいる。



中井 徳太郎

環境省 大臣官房審議官

1962年生まれ。東京大学法学部卒業。85年大蔵省入省。主計局主査(農林水産係)などを経験し、99年から2002年まで富山県に出向。生活環境部長などを勤め、日本海学の確立・普及に携わる。02年財務省広報室長。04年東京大学医科学研究所教授。10年財務省主計官(農林水産省担当)。東日本大震災後の11年7月の異動で環境省に。会計課長、秘書課長を経て、現在、大臣官房審議官(総合環境政策局担当)。



田中 克

京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長

1943年滋賀県大津市生まれ。京都大学農学部水産学科卒業。水産庁西海区水産研究所、京都大学農学研究科で稚魚の生態研究に取り組む。

2003年京都大学フィールド科学教育研究センター発足とともに「森里海連環学」を提唱。森と海のつながりを基本に、震災の海三陸沿岸と瀕死の海有明海の再生を、高校生等続く世代を包み込みながら進める。シーカヤックにより日本の沿岸各地を巡る「海通路」に参加し、いのちのふるさと海と生きる未来を拓く道を探る。京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長。著書に「森里海連環学への道」、「森里海連環による有明海再生への道一心の森を育む」ほか。



開催趣旨

私たちは今、文明の大きな岐路に直面しています。

このまま自然に寄り添わない道を歩めば、続く世代の心豊かな未来はあるでしょうか。自然と共に生きる道の再生は、私たちの暮らし、経済、心のありようなどをより持続可能な方向に切り替え、すべての命が大切にされる“生命文明”を開く道でもあります。

おりしも環境省は、「つなげよう 支えよう森里川海プロジェクト」を立ち上げ、命の源“水”の恵みをもたらし続けてくれる森・里・川・海が存在を考え直し、これらを結ぶ多様なつながりを紡ぎ直す国民的運動を展開しようと、力強く踏み出しました。この官民一体の取り組みを民の側から支える「推進志民会議」を各地で立ち上げ、全国展開の基盤整備が進められています。

ここ東北は、日本のいわば“ふるさと”とも言える地域であり、2011年には巨大な地震と津波の直撃を受け、豊かな自然資本が毀損されると共にふるさとや海と生きる意味を本質的に問い直すことを迫られた場所でもあります。震災復興に向けて地域に根差して粘り強く進める多くの取り組みがこの「東北推進志民会議」をキックオフとして、よりつながりあい、続く世代のために、東北からの日本再生に向けた、未来を切り拓く道に踏み出しましょう。



東北大学片平キャンパス
生命科学研究科プロジェクト棟

仙台市営バス・仙台駅前のりば
11番のりば
・霊屋橋・動物公園経由緑ヶ丘三丁目行
・霊屋橋・動物公園・日赤病院経由八木山南団地行
| 東北大正門前 下車(約10分)

12番のりば
・霊屋橋・動物公園・西の平経由 長町南駅・長町(営)行
| 東北大正門前 下車(約10分)

仙台市営地下鉄・南北線
・富沢行
| 五橋駅 下車(約1分)
| のち徒歩(約10分)

徒歩
| 仙台駅西口より(約15分)